

＜16年3月期 通期決算 市橋社長挨拶＞

【16年3月期の実績について】

16年3月期の業績は、売上高1兆7,455億円、営業利益は983億円、純利益は651億円となり、対前年比で増収減益となりました。

上期は概ね期首計画のとおりに進捗しましたが、下期以降は、中国経済や商品市況・為替など、経営環境に変調がありました。特に年明け以降に一段と進んだ、世界経済の変調、為替の変動といった急激な変化があり、減益という結果となりました。

期末配当については、この結果を踏まえ、前回予想に対して2円減配の18円とし、中間配当と合わせた年間では38円とさせていただきたいと考えております。

その一方で、昨年10月末の第2四半期決算発表の際にお話した、「環境変化に左右されにくい体質を実現して持続的成長を目指す」という中長期目線での取り組みについては、地域としての米州強化や商品領域としての小型トラック強化などを着実に推進しており、概ね計画どおりに進んでいます。

【17年3月期の見通しについて】

年明け以降、今に至る厳しい環境は、今年度も継続すると想定せざるを得ないと考えています。

世界経済の動向、為替、商品市況など不透明な要素も多く、このような状況で業績の見通しを立てるのは、極めて難しいと感じています。

もちろん、国内・海外とも、販売台数の増加を目指してまいりますし、原価改善も進めてまいります。不透明感が強いことから、今期の見通しは、為替105円を前提として、営業利益で800億円と致しました。売上高は1兆6,700億円、純利益は550億円の見通しです。

このような不透明な状況であり、配当については、業績を見ながらの検討とするため、未定と致します。

【持続的成長を目指して】

中長期視点での課題認識や取り組みについては、経営環境のいかに関わらず、日野が将来にわたって、お客様とともに、持続的に成長していくために必要なものであり、着実に進捗しております。

例えば、世界中のお客様に、適格商品を、タイムリーにお届けするために、国内では、古河工場への移転と、新田工場の拡張を軸とする、工程再編に取り組んでいます。古河工場では17年初の本格稼働に向けた準備が、日々、着々と進んでいます。新田工場でも、今年の年央に、大型エンジン工場が稼働を開始する予定です。

また、お客様の車両のアップタイム最大化・ライフタイムコスト最小化の追求を通じて お客様のビジネスを支える『トータルサポート』においても、例えば販売会社において拠点の新設・リニューアル等を適宜行い、効率や利便性を改善しています。これらの取り組みを通じて、販売台数の増加のみに頼るのではなく、お客様のビジネスを支えることで成長していけるようなビジネスモデルを確立していきたいと考えています。

その他の中長期課題についても、スピード感を持って、着実にやりきっていきます。将来の持続的成長を実現するための取り組みを加速していきたいと考えております。

以上